

平成24年度学力向上に向けた取組

函館市立 南本通小 学校 学級数 12

視点1：アプローチの視点に基づいた、「組織的」で「つながり」（学びの連続性・学校内外の連携）をもった取組

重点教育目標

自ら学び 心豊かに 生きる子

A 各教科・領域等における系統性や、他の教科・領域等との関連に配慮する

B 長期的な見通しをもって、学習内容を確実に定着させる

C 校内研究の進め方を見直す

D 授業公開や外部への公開・発信を生かす

取組の概要

1 取組のきっかけ

本校では北海道教育の日にちなんだ「南小教育の日」を、保護者や地域、近隣小中学校への地域公開参観日として行ってきた。これまでにノーマリー教育や校内研究と関連させて外国語活動（1・2年は国語科）の公開を全クラスにて実施した経緯がある。

昨年度より本校の校内研修のテーマを「豊かに表現する児童の育成」とし、国語科の言語活動を窓口として取り組んでいる。このことを「南小教育の日」と関連付け、当日を国語科の一斉授業公開として取り組んだ。

2 取組の位置付け

提案を「教務・研究部」提案とし、地域公開授業に関わる部分を研究部が、「南小教育の日」全体に関わる部分や案内文書、授業略案集約等を教務部でおこなった。

3 取組の方法

- 職員会議での全体提案（教務・研究部）
 - ・授業の視点と略案形式についての提案
 - ・案内プリント作成・配布（保護者、学校評議員、地域・近隣小中学校）
 - ・指導略案の原版集約、印刷、帳合い（全学年の指導略案を来校者全員に配布）
- 当日の来校者の動き
 - ・保護者は自身の子どもの学級以外にも自由に参観してもよいことを伝えた。
 - ・地域公開授業終了後には、全体会として地域・保護者・教師を交え、教育に関する座談会を実施し、子育てのことや学校での子どもの様子などを交流した。

取組の成果と課題等

○ 取組の成果

◇ 11月1日（木）に「南小教育の日」を行った。

- ・授業の公開を5時間目とし、全学級で国語科の授業を公開した。
- ・校内研究の主題である「豊かに表現する児童の育成」を意識した授業の公開を行うことを共通に理解して実施した。いくつかの学級で取り組んだ例を挙げると、

① 説明文で、文と文をつなぐ言葉（まず、次に、ですからなど）に着目させて、読み取りを深める学習を行った。最初の文と後の文がどのような関係なのかを小グループで話し合い、全体で発表し接続語の理解を深める学習を行った。

② 俳句の学習では、「～楽しいな」という直接的な表現がされている普通の俳句と、楽しいということを別の表現で表現された2つの俳句を読み比べることを導入とした授業が行われた。その後、小グループでの検討と全体での発表をし、最後にはそれまでの話し合いを受けて自分の俳句の推敲に取り組んだ。

(成果) → 全学年一斉公開ということから、自分の子以外の学年を参観する保護者もいた。保護者や地域の方も多数来校していただいた。

参観者に対しては、全学年共通の教科・共通の視点を設けていることで、校内研究を通して本校が力を入れているところを知ってもらいよい機会となったと感じている。これは、本校は「南小マニフェスト」を保護者や地域に公開し学校の目指す姿を明確に示しており、その中における「各教科の指導の工夫」「言語活動の推進」の実践発表の場でもある。本校の取組を地域にわかりやすく活動を説明する一環である。

◇ 記念講演会の実施

- ・開校30周年事業の一環として、北海道大学大学院教授船水尚行氏を招いて記念講演会を行った。5時間目の授業公開のあとの6時間目に、4年生以上の高学年児童、および参観者を対象に行った。（船水氏の専門は発展途上国における生活排水の水質浄化である）
- ・演題を「アフリカの子どもたちの生活と自分たちの毎日の生活を比べながら、トイレについて考える」とし、清潔である児童自身の普段の生活と、発展途上国における住まいや台所、トイレの現状について地図や写真を用いながら比較した。

(成果) → 開校30周年記念ということで、本校では児童対象の講演会が初めてであったので前例がなかったが、講師が小学生向けに具体的で分かりやすい講演であった。特に、自分達の当たり前前の生活環境が決して「当たり前前」ではないということを知るきっかけとなった。今年度が記念の年であったから実現した講演であったが、本校が継続して実施してきた「南小教育の日」の新しい試みであったと感じている。

○ 教育課程検証の方法

- ・学校評価に関しては、2学期末に各分掌部における自己評価を実施して、現在はそれを元に次年度に向けての検討を行っている最中である。保護者アンケート、児童アンケートも既に実施し、その結果を踏まえて教職員のマニフェスト自己評価を行った。アンケートに関しては、本校のマニフェストの柱である「確かな学力」「豊かな心と体」を軸に各項目に沿った質問に到達度A～D及び文章記述で行っている。
- ・学力向上に関しては、「教務・研究部合同部会」を行い、学力・学習状況調査等の結果を踏まえて、校内的にどのように取り組んでいくか分析し指導に向けて取り組んでいる。

